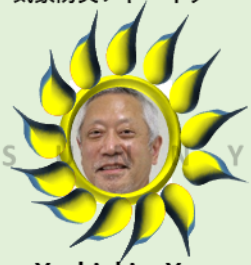
令和４年１２月号

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月１で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

気象防災アドバイザー

Yoshiaki　Yano

火の用心　風に用心　カチカチ

火災シーズンの到来です。また年末になると思い出すのが糸魚川市大規模火災です。

ご記憶の方もいらっしゃるのではないでしょうか。2016 年 12 月 22 日、新潟県糸魚川市で大規模火災が発生しました。ラーメン店の大型こんろの消し忘れにより、昼前に出火、消えたのは約 30 時間後の翌日夕方でした。147 棟（床面積 30,213 ㎡）を含む約 4 万平方メートルが焼損しました。

出典:平成 29 年版　消防白書
（風は筆者加筆）

出火当日は、日本海に発達中の低気圧があり、これに吹き込むいわゆる“フェーン風”が起き、糸魚川市付近は“乾いた 10～15m/s ほどのやや強い南風”となっていました。炎は横になびき、火の粉が飛ぶどころか、燃えているものが広く飛散し、６ｍ幅の道路も難なく燃え移ったり、飛び火したりして、同時多発的に風下側に延焼が拡大していきました。消火活動は困難を極め、最終的な出動車両は翌日までに消防車等 235 台、活動人員のべ 1,887 人と報告されています。現場の北に国道があり、その先は日本海だったので延焼はここで止まりましたが、この先に建物などがあったなら更に拡大していたことでしょう。

363 世帯 744 人に避難勧告が出されました。ただ、大規模火災であったにも関わらず、幸いにも亡くなった方はなく、負傷者は 17 人、うち 15 人は消火活動の消防団員で、２人は軽症の一般の方でした。

このように人的被害が少なかったのは、もちろん防災行政無線により何度も避難を呼びかけたこともありますが、またご近所で声を掛け合い助け合って避難したと聞いていますので、この“ご近所力”が大きな効果を発揮したと思います。

糸魚川市大規模火災

災害現場には何度か訪れたことがありましたが、大規模火災の現場は初めてでした。洪水や地震の現場では、どのような街並みであったかを知る手がかりはある程度残されていますが、広範囲に何もかもが燃え尽きた現場は、津波と同様、以前の街並みを推しはかることはできませんでした。出火から９日後の大晦日の現場は、大規模火災であっただけに手が付けられておらず、まだ焦げ臭さも残っています。目の当たりにする悲惨な状況と、年末に焼け出された方々の境遇を思うと、自ずとぼう然となってしまいました。

東京の８月の平均気温は 26.9℃、平均相対湿度は 74%です。これらを用いて空気１立方メートル当たりに含まれる“水蒸気量”を算出すると 19.0g です。一方、１月だと 5.4℃、51%で 3.6g です。何と１月の水蒸気量は８月の５分の１以下です。それだけに物も建物も乾燥し燃えやすくなっています。日頃から火の取り扱いには充分ご注意なさっているとは存じますが、風が強い日は、なお一層気をつけたいものです。“**火の用心！**”カチカチ。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係　電話　２２７４

令和４年12月8日
危機管理課発行